

平成29年度 第7回全体庁議（10月17日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(2) とちち帯広空港の経営改革について [商工観光部]
----	-------	--------------	------------------------------

■ 提案・報告の趣旨

道内7空港の一括民間委託に関して、本年7月末に策定・公表した制度設計案「北海道内7空港特定運営事業等 基本スキーム(案)」に対するパブリックコメントや民間投資意向調査(マーケットサウンディング)の実施結果、今年度予定している実施方針策定に向けた検討状況について、10月26日に開催される産業経済委員会に報告するもの。

■ 提案・報告の主な内容(概要)

1. パブリックコメントの実施結果

- (1)実施期間 平成29年8月10日(木)～9月11日(月)
- (2)意見の件数 11件(2人)
- (3)意見の取扱い 既に案に盛り込んでいるもの(1件)、その他意見として伺ったもの(10件)

2. 民間投資意向調査(マーケットサウンディング)の実施結果

- (1)実施期間 平成29年7月31日(月)～9月11日(月)
- (2)実施結果 関心表明書の提出事業者110社。先行事例で最も多い福岡空港を上回る関心の高さ。

3. 実施方針策定に向けた検討状況

- (1)公的負担の見直し  
将来収支は算定中。滑走路等の更新投資費用に加え、一部その他の経費も公的負担を行う「混合型」となる見込み。
- (2)事業者の審査・選定について  
有識者等で構成する審査委員会で提案内容を一体的に審査・評価。7空港全体と個別空港毎に分けて審査を行う予定。
- (3)地域との共生を実現するための枠組み  
空港を核とした観光振興や地域活性化等の取組みに関して、各種枠組みの構築を検討中。
- (4)モニタリングの考え方  
運営者の負担軽減のため、7空港共通のモニタリング体制を検討中。

4. 駐車場の管理・運営のあり方

- (1)現状と問題点  
近年、駐車台数は増加傾向。大型連休を中心に収容台数を超過。車両の通行や除雪作業の支障となっている。
- (2)駐車料金  
条例上、現空港開港当初(S56)は有料制であったが、その後石勝線開通により乗降客数が大幅に減少し続けた状況を踏まえ、当面の間無料化へ移行(S59)。現在はダブルトラッキング化や機材の大型化などで乗降客数は増加傾向で推移。無料化当時と環境は大きく変わっている。
- (3)空港利用者の意向  
・収容台数がやや不足、不足と回答した人は6割強。  
・有料化、一部有料化が必要と回答した道内居住者は3割強。  
・有料化する場合の料金は、「1時間100円」、「1泊500円」、「入場から1時間無料」の意見が最も多い。
- (4)「とちち帯広空港における経営改革に関する検討会議」委員の意向  
・適正な管理やサービス良質化のためには有料化が必要。  
・有料化する場合、二次交通の利用促進や利便性向上の検討が必要。
- (5)有料化収支シミュレーション  
・道内有料空港の収容台数、ゲート式システム導入、駐車料金1時間100円など、一定の試算条件で算定。  
・収支予測 2,700万円(事業期間30年 年平均)
- (6)今後の管理・運営のあり方  
・混雑状況の緩和など、駐車場の適正な管理を行うにあたり、駐車料金の有料制を検討する。  
・民間委託に関わらず有料制の検討は必要と考えるが、バンドリングによる相乗効果等も期待されるため、民間委託の検討と併せて行う。  
・駐車料金や整備手法などは、運営者に提案を求めることを検討する。

■ 今後のスケジュール(想定)

- ・平成29年10月 産業経済委員会へ報告

■ 審議結果

- ・同内容で、10月26日産業経済委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等

- ・特になし